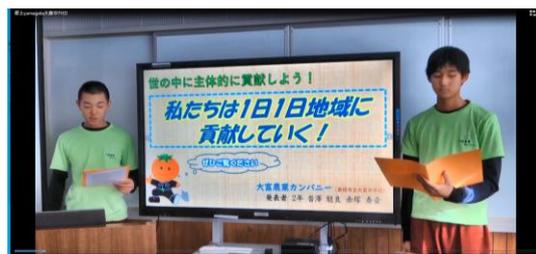


東根市立大富中学校

大富農業カンパニー

沓澤 魁良 赤塚 音



『大富農業カンパニー』としての『地域貢献』を探究する

1 テーマについて

7月10日(土)に1周年を迎えた「大富農業カンパニー」。昨年度は、自分が好きな農業で地域貢献したいという思いから、野菜や果物を育てて、敷地内の無人直売所で販売しました。

今年は、「地域貢献の仕方」について、これまでの取組等を振り返り、考え、実際に活動し、評価することで、更に高めていくことをねらいとしました。

2 テーマに基づく活動について

昨年度、道徳の時間に無人販売所の勉強をしたことをきっかけに「大富農業カンパニー」を立ち上げ、「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」で優秀賞を受賞。今年度は、「続けることが最も大切であること」と「貢献の仕方についてもっと広げてみる」ことを目的として、以下の活動を行いました。

① 農業を通しての地域貢献は、冬、活動がうまく行きませんでした。そんな時、担当の先生に「そもそも、大富農業カンパニーの『最大のねらい』は何？」と聞かれ、ドキッとしました。

地域貢献と言いながら、自分たちが満足する活動をするのがねらいとなっていました。そこで地域の声を聞いてみると新聞や空き缶を捨てる機会がなく、高齢者宅には、冬季にいつぱいたまってしまうという話がありました。

資源回収は、春と秋に行われます。私たち「する側」の都合が良いからです。冬季は大変ですが、相手のためにすることこそ「地域貢献」だと考え、学校の先生や生徒会の協力を得て、少しずつ(8回に分けて)実施しました。この売上で、今地域が必要なものの寄付や、来年の農業の資金をつくることができました。何より、資源回収の時、多くの方に「ありがとう」と言われたことがうれしかったです。

② 自分たちの活動を応援してくれた、村山産業高校を訪問し、校長先生と教頭先生から激励と助言をいただきました。校長先生の「作物をつくるだけではなく、その作物が活きるための学習(栽培・商標・加工・農機等)

がこれからの農業で大切なことです。実際に実践している大富農業カンパニーだから今後も応援させていただきます。これぞ探究学習です。更に探究してください。」という助言が心に残りました。

相手のために活動することが、「大富農業カンパニー」で大切にすることであることに気付くことができたことが、最も大きな成果です。

3 これからの活動に向けて

農業を通して地域貢献を大事にしているので、更なる野菜の品質向上やビニールハウス栽培、菌類(きのこ)の栽培について考えていきたいです。

また、食品ロス(直売所売れ残り)や私たちができる加工製品について、冬季の貢献方法、販売作物・製品についても学習したいです。

大切なことは「続けること」だと思うので、これからも持続可能な「地域貢献」の方法について考えます。

